

1901

- ・ キプリング『少年キム』

1902

- ・ ゴーリキー『どん底』
- ・ コンラッド『闇の奥』

1903

- ・ チェーホフ『桜の園』
- ・ ロンドン『荒野の呼び声』

1904

- ・ ロマン・ロラン『ジャン・クリストフ』 (～12)

1905

- ・ 夏目漱石『吾輩は猫である』

1906

- ・ 島崎藤村『破戒』
- ・ ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』

1908

- ・ バルビュス『地獄』
- ・ メーテルリンク『青い鳥』

1909

- ・ アンドレ・ジッド『狭き門』
- ・ スタイン『三人の女』

1910

- ・ リルケ『マルテの手記』
- ・ ルルー『オペラ座の怪人』

1912

- ・ フランス『神々は渴く』

1913

- ・ プルースト『失われた時を求めて』 (～22)

1914

- ・ カフカ『城』
- ・ フロスト『ボストンの北』

1915

- ・ 芥川龍之介「羅生門」

・ ギルマン『フェミニジア』

・ モーム『人間の絆』

1916

・ カフカ『変身』

・ ジョイス『若い芸術家の肖像』

・ トウェイン『不思議な少年』

1917

・ アダムズ『ヘンリー・アダムズの教育』

1918

・ ヴァレリー『若きパルク』

・ ウィラ・キャザー『マイ・アントニーア』

1919

・ アンダスン『ワインズバーグ・オハイオ』

・ モーム『月と六ペンス』

1920

・ ウォートン『エイジ・オブ・イノセンス』

・ カレル・チャペック『ロボット』

・ ザミャーチン『われら』 (～21)

・ マルタン・デュ・ガール『チボー家の人々』 (～40)

・ ルイス『本町通り』

1921

・ ハシェク『兵士シュヴェイクの冒険』 (～22)

・ ピランデッロ『作者を探す六人の登場人物』

・ 魯迅『阿Q正伝』

1922

・ エリオット『荒地』

・ E・E・カミングス『巨大な部屋』

・ ジョイス『ユリシーズ』

1923

・ コレット『青い麦』

・ ラディゲ『肉体の悪魔』

・ 魯迅『呐喊』

1924

- ・ オニール『楡の木陰の欲望』
- ・ トーマス・マン『魔の山』
- ・ フォースター『インドへの道』

1925

- ・ ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- ・ ドライサー『アメリカの悲劇』

1927

- ・ モーリヤック『テレーズ・デスケルウ』

1928

- ・ ショーロホフ『静かなるドン』（～40）
- ・ ブレヒト『三文オペラ』
- ・ ブルトン『ナジャ』
- ・ ロレンス『チャタレー夫人の恋人』

1929

- ・ クローデル『繻子の靴』
- ・ ジャン・コクトー『恐るべき子供たち』
- ・ 小林多喜二『蟹工船』
- ・ トマス・ウルフ『天使よ故郷を見よ』
- ・ ウィリアム・フォークナー『響きと怒り』

1930

- ・ プラトーフ『土台穴』
- ・ ポーター『花咲くユダの木』
- ・ マルロー『王道』
- ・ モーム『お菓子と麦酒』

1931

- ・ サン＝テグジュペリ『夜間飛行』
- ・ 巴金『家』
- ・ パール・バック『大地』
- ・ ヘルマン・ブロッホ『夢遊の人々』

1932

- ・ オストロフスキー『鋼鉄はいかに鍛えられたか』
- ・ コールドウェル『タバコ・ロード』
- ・ セリーヌ『夜の果てへの旅』

- ・ ハクスリー 『すばらしい新世界』
- ・ モーリヤック 『蝮のからみあい』
- ・ ローラ・インガルス・ワイルダー 『大きな森の小さな家』

1933

- ・ マルロー 『人間の条件』
- ・ ムージル 『特性のない男』

1934

- ・ ヘンリー・ミラー 『北回帰線』

1935

- ・ 川端康成 『雪国』
- ・ ジロドゥ 『トロイ戦争は起こらない』

1936

- ・ ベルナノス 『田舎司祭の日記』
- ・ マーガレット・ミッチェル 『風と共に去りぬ』
- ・ 老舎 『駱駝祥子』

1937

- ・ クローニン 『城砦』
- ・ イサク・ディーネセン 『アフリカの日々』
- ・ ハーストン 『彼らの目は神を見ていた』

1938

- ・ サルトル 『嘔吐』
- ・ ソーントン・ワイルダー 『わが町』
- ・ ドス・パソス 『U・S・A』

1939

- ・ フラン・オブライエン 『スウィム・トゥー・バーズにて』
- ・ ジョイス 『フィネガンズ・ウェイク』
- ・ スタインベック 『怒りの葡萄』
- ・ チャンドラー 『大いなる眠り』

1940

- ・ カロッサ 『美しき惑いの年』
- ・ ブッツァーティ 『タタール人の砂漠』

1942

- ・ カミュ 『異邦人』

1943

- ・ サルトル『存在と無』
- ・ サロイヤン『人間喜劇』
- ・ 谷崎潤一郎『細雪』
- ・ ヘッセ『ガラス玉演戯』
- ・ ボーヴォワール『招かれた女』

1944

ボルヘス『伝奇集』

1945 終戦／無頼派～

- ・ アンドリッチ『ドリナの橋』
- ・ ウィリアムズ『ガラスの動物園』
- ・ オーウェル『動物農場』
- ・ ロルカ『ベルナルダ・アルバの家』
- ・ 新日本文学会（民衆主義文学）～2005年

1946

- ・ マッカーズ『結婚式のメンバー』
- ・ レマルク『凱旋門』
- ・ 老舎『四世同堂』

1947

- ・ ヴィアン『日々の泡』
- ・ ウィリアムズ『欲望という名の電車』
- ・ トーマス・マン『ファウスト博士』
- ・ マルカム・ラウリー『火山の下』
- ・ 太宰治『斜陽』

1948

- ・ ニコス・カザンザキス『その男ゾルバ』
- ・ トルーマン・カポーティ『遠い声 遠い部屋』
- ・ 太宰治『人間失格』
- ・ ノーマン・メイラー『裸者と死者』
- ・ 坂口安吾の『墮落論』

1949

- ・ ウェルティ『黄金の林檎』
- ・ ジャン・ジュネ『泥棒日記』

- ・ ボウルズ『シェルタリング・スカイ』
- ・ アーサー・ミラー『セールスマンの死』
- ・ 大岡昇平『俘虜記』
- ・ 三島由紀夫『仮面の告白』

1951

- ・ グラック『シルトの岸辺』
- ・ サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』
- ・ マッカラーズ『悲しき酒場の唄』
- ・ ユルスナール『ハドリアヌス帝の回想』

1952

- ・ オコナー『賢い血』
- ・ ゴールディング『蠅の王』
- ・ エイモス・チュツオーラ『やし酒飲み』
- ・ ベケット『ゴドーを待ちながら』
- ・ ヘミングウェイ『老人と海』
- ・ 大岡昇平『野火』

1953

- ・ カルペンティエル『失われた足跡』
- ・ ボールドウィン『山にのぼりて告げよ』

1954

- ・ サガン『悲しみよこんにちは』
- ・ トールキン『指輪物語』（～56）

1955 ビートニクス（～64）

- ・ オコナー『善人はなかなかいない』
- ・ ナボコフ『ロリータ』
- ・ ルルフォ『ペドロ・パラモ』
- ・ レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』

1956 高度経済成長期～

- ・ オニール『夜への長い旅路』
- ・ オクタビオ・パス『弓と豎琴』
- ・ ボリス・パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』
- ・ ビュトール『時間割』
- ・ 三島由紀夫『金閣寺』

1957

- ・ ジャック・ケルアック 『路上』
- ・ ビュトール 『心変わり』
- ・ マラマッド 『アシスタント』
- ・ ロブ＝グリエ 『嫉妬』

1958

- ・ チヌア・アチェベ 『崩れゆく絆』
- ・ ピアス 『トムは真夜中の庭で』

1959

- ・ グラス 『ブリキの太鼓』
- ・ クノー 『地下鉄のザジ』
- ・ シリトー 『長距離走者の孤独』
- ・ バロウズ 『裸のランチ』
- ・ ロス 『さようならコロンバス』

1960

- ・ ジョン・アップダイク 『走れウサギ』
- ・ イヨネスコ 『犀』
- ・ 大西巨人 『神聖喜劇』 (～70)
- ・ クロード・シモン 『フランドルへの道』
- ・ ジョン・バース 『酔いどれ草の仲買人』
- ・ ハーバー・リー 『アラバマ物語』

1961

- ・ アクショーノフ 『星の切符』
- ・ ヘラー 『キャッチ=22』
- ・ レム 『ソラリス』

1962

- ・ 安部公房 『砂の女』
- ・ オールビー 『ヴァージニア・ウルフなんかこわくない』
- ・ ケン・キージー 『カッコーの巣の上で』
- ・ ソルジェニツィン 『イワン・デニーソヴィチの一日』
- ・ ボールドウィン 『もう一つの国』
- ・ ムヒカ＝ライネス 『ボマルツォ公の回想』
- ・ レッシング 『黄金のノート』

1963

- ・ トマス・ピンチョン 『V.』
- ・ シルヴィア・プラス 『ベル・ジャー』
- ・ ホークス 『もうひとつの肌』

1964

- ・ ソール・ベロー 『ハーツォグ』

1965

- ・ カポーティ 『冷血』
- ・ 小島信夫 『抱擁家族』
- ・ コルタサル 『石蹴り遊び』
- ・ ピンター 『帰郷』

1966

- ・ バルガス＝リョサ 『緑の家』
- ・ ブルガーコフ 『巨匠とマルガリータ』 (執筆は1929～40)
- ・ マラマッド 『修理屋』
- ・ ル・クレジオ 『大洪水』

1967

- ・ 大江健三郎 『万延元年のフットボール』
- ・ カヴァン 『氷』
- ・ ガルシア＝マルケス 『百年の孤独』
- ・ ロバート・クーヴァー 『ユニヴァーサル野球協会』
- ・ ミシェル・トゥルニエ 『フライデーあるいは太平洋の冥界』
- ・ ドナルド・バーセルミ 『雪白姫』
- ・ リチャード・ブローティガン 『アメリカの鱒釣り』

1968

- ・ 川端康成 ノーベル文学賞受賞
- ・ フィリップ・K・ディック 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』

1969

- ・ アレナス 『めくるめく世界』
- ・ ヴォネガット 『スローターハウス5』
- ・ オーツ 『かれら』
- ・ ル＝グウィン 『闇の左手』

1970

- ・ パーシー 『廃墟の愛』
- ・ ホセ・ドノソ 『夜のみだらな鳥』
- ・ マードック 『ブルーノーの夢』
- ・ 三島由紀夫 自衛隊市ヶ谷駐屯地にて切腹自殺

1972

- ・ カルヴィーノ 『見えない都市』
- ・ ミルハウザー 『エドウィン・マルハウス』

1973 ポストモダニズム文学

- ・ ミヒャエル・エンデ 『モモ』
- ・ アレクサンドル・ソルジェニーツィン 『収容所群島』 (～75)
- ・ トマス・ピンチョン 『重力の虹』

1975

- ・ バーセルミ 『死父』

1976 団塊の世代の台頭～

- ・ キングストン 『チャイナタウンの女武者』
- ・ シャンゲ 『死ぬことを考えた黒い女たちのために』
- ・ 村上龍 『限りなく透明に近いブルー』

1977

- ・ コルタサル 『通りすがりの男』

1978

- ・ アーヴィング 『ガープの世界』
- ・ ティム・オブライエン 『カチアートを追跡して』
- ・ グリーン 『ヒューマン・ファクター』
- ・ シェパード 『埋められた子供』

1979

- ・ イスカンデル 『チェゲムのサンドロおじさん』
- ・ スタイロン 『ソフィーの選択』
- ・ ナイポール 『暗い河』
- ・ 村上春樹 『風の歌を聴け』

1980

- ・ エーコ 『薔薇の名前』
- ・ ドゥルーズ、ガタリ 『千のプラトー』

1981

- ・ フィリップ・K・ディック 『ヴァリス』
- ・ バルガス＝リョサ 『世界終末戦争』
- ・ ラシュディ 『真夜中の子供たち』

1982

- ・ ウォーカー 『カラーパープル』

1983

- ・ スウィフト 『ウォーターランド』
- ・ プイグ 『蜘蛛女のキス』
- ・ 糸井重里 『おいしい生活』

1984

- ・ アイリス・アードリック 『ラブ・メディシン』
- ・ ウィリアム・ギブスン 『ニューロマンサー』
- ・ ミラン・クンデラ 『存在の耐えられない軽さ』
- ・ ジュリアン・バーンズ 『フロベールの鸚鵡』
- ・ JG・バラード 『太陽の帝国』

1985

- ・ アン・タイラー 『アクシデンタル・ツーリスト』
- ・ パワーズ 『舞踏会へ向かう三人の農夫』
- ・ ビーティー 『愛している』
- ・ 村上春樹 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

1986

- ・ アゴタ・クリストフ 『悪童日記』
- ・ アトウッド 『侍女の物語』
- ・ オースター 『幽霊たち』
- ・ クッツェー 『敵あるいはフォー』

1987 昭和時代末期の文学～

- ・ 吉本ばなな 『キッチン』 でデビュー→ “ばなな現象”
- ・ 俵万智 『サラダ記念日』

1988

- ・ アジェンデ 『エバ・ルーナ』
- ・ トニ・モリスン 『ビラヴド』
- ・ ラシュディ 『悪魔の詩』
- ・ ランスマイアー 『ラスト・ワールド』

- ・ 高橋源一郎『優雅で感傷的な日本野球』

1989 ベルリンの壁崩壊 平成一桁時代の文学～

- ・ エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』
- ・ エリクソン『黒い時計の旅』

1990

- ・ バイアット『抱擁』
- ・ クンデラ『不滅』

1991 ソビエト連邦解体

- ・ カーター『ワイズ・チルドレン』

1992

- ・ マッカーシー『すべての美しい馬』
- ・ ムリシュ『天国の発見』
- ・ 莫言『酒国』

1993

- ・ 池澤夏樹『マシマス・ギリの失脚』
- ・ 遠藤周作『深い河』

1994

- ・ タブッキ『供述によると、ペレイラは……』
- ・ プルー『 SHIPPING・ニュース』

1995 地下鉄サリン事件

- ・ ウェルシュ『マラボウストーク』
- ・ サラマーゴ『白の闇』
- ・ 莫言『豊乳肥臀』

1997

- ・ ギルバート『巡礼者たち』
- ・ ピンチョン『メイスン&ディクソン』

1998 平成10年代の文学 J-POP

- ・ ウエルベック『素粒子』
- ・ キングソルヴァー『ポイズンウッド・バイブル』
- ・ オルハン・パムク『わたしの名は赤』
- ・ ムーア『アメリカの鳥たち』

1999

- ・ カニンガム『めぐりあう時間たち』

2000

- ・ ケアリー『ケリー・ギャングの真実の歴史』
- ・ ダニエレブスキー『紙葉の家』
- ・ エンリケ・ビラ＝マタス『バートルビーと仲間たち』
- ・ ラヒリ『停電の夜に』

2001

- ・ ゼーバルト『アウステルリッツ』

2004

- ・ ゴデ『スכולタの太陽』
- ・ ロベルト・ボラーニョ『2666』

2005

- ・ エリクソン『エクスタシーの湖』
- ・ 町田康『告白』

2006

- ・ チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ『半分のぼった黄色い太陽』

2007

- ・ フィリップ・クローデル『ブロデックの報告書』
- ・ ジュノ・ディアス『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』
- ・ コーマック・マッカーシー『ザ・ロード』
- ・

大衆文学・エンターテイメント小説

ライトノベル（1980年前後～）、メディアミックス（1990年代～）、ハイパーテキスト（2000年代後半～）